

見て見ぬふりもしない勇気

太田市立太田中学校 二年 小林 真子

「社会を明るくする運動」と聞いたとき、

私は最初、「犯罪をなくするための運動」とい

うイギリスしかありませんでした。しかし、

調べていくうちに、犯罪や非行を防ぐだけで

はなく、過ちを犯した人もう一度社会の一

員として生活できるように支えたり、誰もが

安心して暮らせる地域をつくらなければならないこと

も、この運動の大切な目的だと知りました。

そして私は、そのために一番大事なものは、一

人一人が、見て見ぬふりもしないこと、では

ないかと思いました。

今の社会では、困っている人を見かけても、

「誰か助ける？」という「自分には関係ない

と思っ」てしまうことがあります。私自身も、

そう思っ」てしまっ」た経験があります。学校で

一人で見ている人を見かけても、声をかけようか

迷っ」ているうちに時間が過ぎてしまっ」たこと

や、誰かからかわれていて、止める勇気

か出なかつたことがあります。何もしなかつた私は、その場では呆れたかもしれませんが、でも後になつて、あのとき声をかければよかったと後悔しました。

私は、犯罪や非行は、ある日突然起るものばかりではないと思います。同様に相談できる人はいない。とり、家族や友人に話して、こい雰囲気を作つていたり、自分のことを分かつてくれる人がいないと感じたりする中で、少しづつ心が苦しくなり、間違つた方向へ進

んでしまふ人もいるのではないのでしょうか。もし、その途中で誰かから大丈夫？と声をかけていたり、結果は違つていたかもしれませんが、そんな。もちろん、声をかけるだけで全ての問題が解決するわけではありません。しかし、誰かから自分のことを気にかけてくれていると感じられるだけでも、人の心は少し軽くなると思います。

最近では、学校だけでなく、インターネット上でも人を傷つける言葉を目にすることが

あります。画面越しだと相手の表情が見えないため、軽い気持ちで書いた言葉が相手を深く傷つけてしまうことがあります。また、それを見ている人か何も言わずに見過ごしてしまえば、傷ついた人は誰も助けしてくれないと感じてしまうかもしれません。だからこそ、私たちは言葉を大切に使うことや、相手の気持ちを考えて行動することが必要になってくるのだと思います。

また、「社会を明るくする運動」では、過ちを犯した人の立ち直りを支えることも大切にしていきます。私は最初、「悪いことをして人に応援する人がおかしい」と思っていた。しかし、誰もが失敗をすることがある。反省してやり直そうと努力している人まで、ずっと過去だけが判断され続けたら、新しい一歩を踏み出すことはとても難しいでしょう。もちろん、悪いことを許すという意味ではありません。きちんと反省し、責任を果たした上で、「もう一度頑張ろう」とする

人を支えることは、同じ過ちを繰り返さない
社会をつくることにもつながると思います。
社会を明るくすると聞くと、大人や警察だけ
が頑張れることのように感じる人もいるかも
しれません。しかし、私はそうではないと思
います。中学生の私にもできることがありま
す。困っている友達に「大丈夫？」と声をか
けること、一人でいる人を仲間に誘うこと、
人を傷つける言葉を使わないこと、あいたつ
をすることなど、どれも小さな行動です。で
も、その小さな行動の積み重ねが、人を安心
させ、笑顔を増やし、犯罪や非行を防ぐこと
につながるのではないでしょうか。
私はこれから、自分には関係ないしと考
えるのではなく、自分にできることは何だ
ろうかと考えられる人になりたいです。そし
て、困っている人を見て見ぬふりをせず、勇
気を出して行動できるようになりたいです。
一人一人の小さな優しさや思いやりが集まれ
ば、きっと今よりもっと安心して暮らせる

明
る
い
社
会
を
つ
く
ら
る
と
私
は
信
じ
て
い
ま
す。